

「独立土器」の発掘、実は…

尖石縄文
考古館

守矢特別館長 裏話語る

茅野市尖石縄文考古館は25「守矢昌文同館特別館長が裏話日、数多くの遺跡を発掘した」を語るイベント「発掘、実は！」

背景にあるエピソードを紹介した。

守矢特別館長によると、独立土器は同遺跡が国史跡に指定された1942年に、竪穴

と説明した。

また独立土器は発掘後、東京帝室博物館（現・東京国立博物館）に展示のため持ち込まれたが、戦時中の混乱で消息不明」に。2019年に東京国立博物館で「再発見」され、所蔵者に返却後、同館が寄託を受けて展示となったという。

イベントには約10人が参加して、守矢特別館長の解説に興味深く聞き入った。

イベントは同館が行うキャンペーン「考古館へ行ってみよう」の一環。計4回の計画で以降は11月1日、同8日の午後1時30分から開く。問い合わせは同館（電話0266・766・2270）へ。

（宮沢知史）



守矢昌文特別館長による「独立土器」の解説に聞き入る参加者ら

↑
鉢形土器
状把手付深
土器（X字
した「独立
遺跡で出土
回は市尖石
2回目の今
室で開いた。
を同館展示